

パフォーマンスとアウトプット

児玉 直樹

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

ドジャースがブルージェイズに勝ち、球団史上初となる2年連続ワールドシリーズを制覇するという偉業を達成しました。ドジャースにおいて日本人3選手である大谷翔平選手、山本由伸選手、佐々木朗希選手が大活躍しました。山本由伸選手はワールドシリーズMVPに輝き、日本人選手の最高のパフォーマンスを見ることで日本中が勇気づけられたのではないかでしょうか。最高のパフォーマンスを発揮するためには、不安やプレッシャーをコントロールし、注意を目の前に集中させる必要があるといわれています。決まった動作を繰り返すことで、精神を安定させ、集中力を高めていく、これはまさに日々のトレーニングであり、日々の地道な努力がいかに重要かを示しています。



パフォーマンスは成果を出すまでの行動やプロセスを指し、性能や成果といった意味合いで使用されます。これに対してアウトプットは実際に生み出された成果物そのものを指し、最終的には数値で表現します。つまり良いパフォーマンスが良いアウトプットを生むということになります。パフォーマンスは教育、スポーツ、ビジネスの分野で重要な研究テーマとなっており、パフォーマンスにメンタル的な要素が大きく関わっていることも研究で判明しています。人間の心理や感情、動機付けなどが、パフォーマンスにどう影響するかを科学的に分析することをパフォーマンス心理学と呼んでいます。パフォーマンス心理学はスポーツ選手だけではなく、ビジネスパーソンにも有効であるといわれ、リーダーシップ開発やチームビルディングなどにも応用されています。社員やリーダーが職場で最高の成果を得るために心理的アプローチを特にビジネス・パフォーマンス心理学と呼び、トヨタ自動車ではカイゼン活動に心理学的アプローチを取り入れ、チームパフォーマンスの改善を目指し、Googleではマインドフルネスプログラムを導入し、集中力の向上やリーダーシップ強化を目指したりしています。スポーツ選手のみならずビジネスパーソンにおいてもパフォーマンスの向上は必要不可欠です。

診療放射線技師を含めた医療従事者にとって、医療現場におけるパフォーマンスとは、その専門的能力を向上させ、患者に対して適切な医療を安全かつ効率的に提供することになります。専門的能力には、専門技術の向上のみならず判断力、共感力、感情制御能力などの心理的スキルも含まれます。医療現場は常に高ストレス、高責任、不確実性の高い環境であるため、パフォーマンス向上のための心理アプローチが必要です。マインドフルネスやチームシミュレーショントレーニング、自分の経験を振り返って言語化していくリフレクションなどの心理的アプローチをJARTの講習会等に導入していく必要があると考えています。また医療におけるアウトプットはわれわれの医療行為によって医療の質が向上し、国民のQOL向上にどれくらい貢献できたかになりますが、医療のアウトプットを高めるには、人とシステムの両方の支援が必要不可欠です。個々のパフォーマンスを高めることが、結果的に医療全体のアウトプットを高めることにつながります。

2021年からスタートした厚生労働省告示第273号研修（告示研修）ですが、本年度が都道府県実施の最終年度になります。2025年9月末日現在、45,644人が基礎研修を申し込み、40,635人が基礎研修を修了し、36,549人が実技研修を修了しています。厚生労働省へ届け出た5年間の修了目標数は33,264人ですので、すでに目標に到達しています。残り数ヶ月間は都道府県での告示研修の開催がありますので、さらに修了者数は増加するものと思います。非常に多くの診療放射線技師の方々に告示研修を受講いただいたことに深く感謝申し上げます。最高のアウトプットになりました。個々の診療放射線技師のパフォーマンスを上げるとともに、新たに期待されている業務にも積極的に取り組み、職能団体として、今後、さらなる業務範囲の拡大に発展させていきたいと思います。特に管理職の方々にはリーダーシップを発揮し、JARTの事業へ積極的に関与いただきますようお願い致します。